

タイからの B3 型麻疹ウイルス輸入例ー福岡市

保健科学課 梶山 桂子・古川 英臣・宮代 守
佐藤 正雄

病原微生物検出情報

タイのバンコクから帰国後、40℃の発熱、発疹（丘疹）が出現した。初診時の症状として、体温 39.7℃、全身の融合傾向を伴う丘斑疹、Koplik 斑様の口内炎、上気道炎、頸部リンパ節腫脹、肝機能障害、下痢、血尿、蛋白尿が認められた。ペア初診時の麻疹 IgG 抗体は 6.0 で、約 2 週間後の再検査では 30.8 と有意な上昇を認めた。

当所で病原体検出マニュアル記載の RT-PCR 法により麻疹ウイルス遺伝子検査を実施した結果、N 遺伝子が陽性であった。この RT-PCR 増幅産物から、ダイレクトシーケンス法により塩基配列を決定し、系統樹解析を行ったところ、B3 型麻疹ウイルスであることが判明した。

日本では、B3 型麻疹ウイルスが検出された報告は過去に無く、本症例が初めてである。B3 型は主にアフリカで流行している株であるが、近年はヨーロッパ・カナダ等からの報告も増えている。アジアでの報告は少なく、現在までにタイでの報告はない。しかし、今回の症例はタイへの渡航歴があり、潜伏期間を考慮すると、タイからの輸入例であると考えられ、タイでも B3 型が存在している可能性があると考えられた。